

特別総合科目Ⅳ（東アジア共同体論—学際的アプローチ）

3731002400100

副題		アジアの調和と発展に向けて					担当者		金野 純 准教授		
単位	2	配当年次	1～	開講期間	秋学期	曜日	火	時限	2	コース・ナンバー	INR-004-GA
<p>〔授業の到達目標〕 アジア各国が調和のとれた関係を築くうえで、どのような課題があり、どのような展望が描けるのかについて、歴史・社会・国際関係・環境の側面から多面的に理解する。授業の内容を踏まえて、各自が自分なりの考えを持つ。講座参加者は、アジアが共有する課題を具体的に知り、同時に共同性の構築がもたらすベネフィットについても議論することで、より広い視野からアジアをみる目を養う。</p> <p>〔授業の内容〕 急速に経済的な発展を続けるアジアだが、アジア各国の関係をみれば、様々な問題が存在している。しかし様々な問題がある今だからこそ、逆にアジアの調和の可能性を探る必要性もまた求められているのである。なぜなら東アジアに存在する課題は、国家と国家の関係だけではない。国境を越えた環境問題の広がり、グローバルな経済活動に伴う国際移動の活発化、コミュニケーション技術の発達による社会運動の国際的連帯などの諸現象を目の当たりにする現在、アジアの調和的な関係の構築は我々にとって重要な課題なのである。 そこで本講座では、多様な専門分野から講師を招き、主に（１）国境を越えた広域的課題と（２）各国境内における狭域的課題の２つの側面からアジアについて議論をおこなう。</p> <p>〔準備学習（予習・復習）の内容又はそれに必要な時間〕 毎回の授業の準備として、授業の前にシラバスを確認し、各回の授業に関連した書籍などで事前に「自分なりの見方・意見」を準備した上で、授業に参加すること。授業後は、授業の内容も踏まえて自らの考えを再検討し、内容をリアクションペーパーとして提出すること。</p> <p>〔成績評価の方法〕 毎回のリアクションペーパー（70%）、授業参加（自発的発言等）（30%）。なお授業実施回数分の3分の1以上を欠席した場合は、科目を履修したとは認められません。</p> <p>〔オフィス・アワー／教員との連絡方法〕 火曜3限 授業後に直接連絡するか、もしくは電子メール（jun6116@gmail.com）（change to @）。</p>											

共通科目
（外国語を除く）

〔授 業 計 画〕

第1週	今後の授業に関するガイダンス、また前年度の授業内容についても、先生方とのインタビュー映像を利用して紹介する。
第2週	（歴史・全般）アジアにおける歴史問題と和解の可能性：金野純（学習院女子大学・准教授）
第3週	（歴史・政治）戦前・戦中における日中共同事業：李嘉冬（東華大学・副教授）
第4週	（歴史・経済）香港を中心とした東アジアの経済史：李培徳（香港大学・客員准教授）
第5週	（歴史・思想）戦時期のアジア主義の軌跡と今後のアジア関係：朴尚洙（高麗大学・教授）
第6週	（社会）日本のシティズンシップとアジア：時安邦治（学習院女子大学・教授）
第7週	（社会）日本における外国人居住者への法的支援：皆川涼子（弁護士）
第8週	（社会）中国と日本—国境を越えた公共圏の形成を展望する：阿古智子（東京大学・准教授）
第9週	（国際・言語）スリランカにおける日本語教育：M・A・ニマル（ケラニヤ大学・教授）
第10週	（国際・経済）世界の経済と変わる東アジア：平川均（名古屋大学・名誉教授）
第11週	（国際・人口移動）東アジアの人口移動と国際関係：羅京洙（学習院女子大学・准教授）
第12週	（環境）原発事故の東アジアへの影響：宋浣範（高麗大学・教授）
第13週	（環境）農業からみる環境問題：莊林幹太郎（学習院女子大学・教授）
第14週	（総合）アジア共同体の夢とビジョン：佐藤洋治（ワンアジア財団理事長）
第15週	（総合）授業のまとめ